

ここでは、モンテスマ王とグアシャカ〔オアハカ〕の人々との戦争とその原因と理由、そして彼らがどのようにしてメシーカ王家に服従したのかについて扱う。

第 39 章 オリサバ¹ないしはクエトラシュトラン²の海岸部の人々の件³から数日後、モンテスマからの知らせが届いた。それは、テグアンテペク〔テクアンテペク〕ならびに島々や港を越えたところにあるコアサクアルコ〔コアツァクアルコ〕とタバスコの海岸部には、川の流れにより運ばれたのを採取した砂金や、モンテスマ王の頭飾りや王冠に使うマトラルシウィトル⁴と呼ばれる小石、それを羽根の腕輪（マチョンコトル）や金の腕輪や、盾にはめたり、盾や他の物を塗るためのトラに似た見た目の朱色の巻貝（オセロテクコストリ）⁵を扱ったりして儲けているひとが多く住んでいるということだった。4 人のメシコの重臣たちと彼らに呼び集められた 28 人の商人がそれら全てを求めに行った。そして彼らが〔コアサクアルコで入手した〕黄金や石やその他の品々を運んでいると、モンテスマのためにこれらの財宝を運んでいるということを知ったグアシャカの人々が、モンテスマ王のことを軽んじたのか、あるいは単に強欲に駆られたのか、ミクトランクアウトラ⁶と呼ばれる地域にある険しい山を通る危険な道のところで彼らの前に現れ出て、その行く手をさえぎり、全員を殺してしまった。誰一人として逃げることはできず、持っていた財宝は全て奪われ、そこに打ち捨てられた死体は猛禽や動物に食べられてしまった。それから何年もの月日が経ったのち、グアシャカの人々がなした悪事が知られることとなった。オストメカ⁷と呼ばれる商人たち数人がコアサクアルコに向って歩いていると、グアシャカのマセワル⁸たちの何人かが、自分たちの王が、ミクトランクアウトラの山でメシーカ人にしたように、あなたたちを殺して襲うように人々に命じるであ

¹ ベラクルス州オリサバ。当時、アウィリサパンと呼ばれていた。

² ベラクルス州クタシュトラ。

³ 訳注 1 第 37 章参照。

⁴ 訳注 2 マトラルシウィトル (matlalxihuitl) は、青みが強いトルコ石。

⁵ 訳注 3 オセロテクコストリ (ocelotecoctli) は、オセロテクシストリ (ocelotecciztli)、すなわち暖水に生息するジャガーに似た斑点のある海水性の巻貝と思われる。

⁶ 原注 80 人差し指を伸ばした手〔注目を引くための矢印のような絵〕。

⁷ 訳注 4 オストメカはオストメカトルの複数形。

⁸ 訳注 5 マセワル (maçhual) は、マセワリ (macehualli) がスペイン語化した形。平民の意。

ろうから、そこには行かない方がよいと言った。これを聞いたアスカプサルコ〔アスカポツァルコ〕とスチミルコ〔ショチミルコ〕とテスクコ〔テツココ〕の商人たちはことの重大さを知り、彼らのうちの何人かが死者の骨を見に行き、それが事実であると確認した。そしてこの報告をたずさえてメシコ・テヌチティラン〔メシコ＝テノチティラン〕へ戻って行った。知らせを受けたモンテスマは、彼らに言った。「お前たちは、どこの者であるか。」彼らがチャルコの商人であると告げると、〔モンテスマは〕彼らをもその場に引き留め、その知らせに対して衣服の贈り物を与えた。それからシワコアトル・トラカエレルを呼んで、いかにグアシャカの人々がメシーカ人を殺したか、メシコの宮廷や廷臣を軽んじ、欲に駆られて、ウィツィロポチトリとメシーカ人の名において運んでいた黄金や財宝を奪ったかについて語った。〔するとシワコアトルは〕言った⁹。「何よりもまず大切なのは、我々の神殿を完成させること、それから悪しき異国の者たちをもつて生贄の儀式をすることでしょう。」シワコアトルは〔続けて〕言った、「必要なのは、アクルワカン〔アコルワカン〕のネサワルコヨトルとタクバ〔トラコパン〕のトトキワストリにこのことを伝え、石灰と石とテソントラリ¹⁰を運び込ませ、それを用いてウィツィロポチトリの像、頭、腕、足を作り上げることです。」そしてシワコアトルはモンテスマに言った。「さあ、王よ、メシーカ人の王、私たちが目の当たりにしている全世界の王、モンテスマ・イルウィカミナとして、あなたが打ち立てた名声の記憶が、永遠に失われぬようにしなければなりません。ウィツィロポチトリの神殿と、その壮大な熱い血の生贄の記憶が、我々の勇気と、あなたの父祖と、それを支えてきた私たちの記憶が、永遠に失われぬようにしなければなりません。結局のところ、今日か明日か、10日後か20日後か、何十年後かには、我々は皆死ぬのです。しかし、この記憶だけは永遠なのです。我々についての記憶は永遠に残るのです。」こうして、これらの物資や人夫を集めるためにトリランカルキとテウクトラマカスキに使者が送られ、彼らが訪れるべき地域と場所と町村、必要な物資のことが告げられた。そして、まずはモンテスマのもとに来るようにということが告げられた¹¹。彼らが到着すると、モンテスマは彼らに次のことを説き示した。時、

⁹ 原文では誰のセリフか明瞭ではないが、ドゥランの記述を踏まえると、シワコアトルのセリフと思われる。

¹⁰ テソントレと呼ばれる火山岩を砕いたもの。建材などに用いられる。

¹¹ 原注 81 人差し指を伸ばした手〔注目を引くための矢印のような絵〕。

年、日、夜、風、太陽、水、雪、山、川、死と生であるウィツィロポチトリ神のおかげで、みな生きていること。この神の家である神殿を造り、血を生贄として捧げなければならないこと。「だからこそ、ウィツィロポチトリは、我々の父祖に命令を言い渡し、それによって彼らをこれらの土地に導いたのだ。この地で、我々は世界のすべての国を手中に収めなければならない。それゆえ、我々は勇敢で、士気高く、戦いに優れた、威厳ある者でなければならない。我々はすべてのことを成し遂げてきた。それを永遠に記念するために、彼の家である神殿を造り、その高き武勇と功德を称えるために供儀を行うのである。きわめて偉大な神であり、人々の導き手であったがゆえに、後にこの湖とトゥラル〔葦原〕¹²の神に、葦原の中におわす神に、メシコ・テヌチティランと王家の創始者としての栄光がもたらされたのである。王家の創始者であるアカマピチトリ、そしてその子孫であるウィツィリウィトルとチマルププカ〔チマルポポカ〕は、メシーカ王家に従う最初の人々を獲得した。彼らは、怠ることなく、絶えざる苦勞と努力によって、人々と臣下を獲得したのである。とりわけ、我々はよそ者であり、〔もともとは〕この土地の者でも、このメシコの湖の者でもないことを知る者たちからは、我々は憎まれており、そして、我々に齒向かってくる者たちに、我々は常に立ち向かっている。それゆえ、この神殿すなわちク〔祠〕の適切な修復が必要であり、アスカプサルコ、クユアカン、タクバ、クユアカン¹³、クルワカン、イスタパラパン〔イツタパラパン〕、アクルワカン〔アコルワカン〕、チャルコ、クイトラワク、ミスキク、そしてメコアトラン、トルーカ、マサワカン、チアパ〔チアパン〕、シキピルコ、マトラツィンコ全域、ショコティランの者たち、汝らの助けが必要なのだ。」メシコ王国の都に皆が着くと、ウィツィロポチトリの大きいクを完成させることと、その適切な材料について説明がなされた。人々はみな、モンテスマの言うことやシワコアトル・トラカエレルツィンが命じることに従った。それから、髪結い紐、高価な羽根、チャルチウイトルの石でできた唇飾り、金の耳飾り、金の腕輪を与えるようにという命令が出された。これは、テスクコのネサワルコヨトルとタクバのトトキワストリだけに与えられた。それから、重臣全員にモンテスマの命令が伝えられた。そして週の始まりの日で、セ・テクパトルと呼ばれる 1=燧石の日までに、

¹² 原文では斜字体で *tular* となっている。これはスペイン語 *tular* の語源がトリ (*tolli*, 葦) であることによる。

¹³ クユアカンが繰り返されている。

あるものは1エスタード¹⁴、他のものは2エスタードの高さのある、大きくて重たい石が大量に集められると、テスクコとタクバ、クユアカン、アスカプサルコ、チャルコ、シュチミルコ〔ショチミルコ〕から、〔神殿の〕四隅に置かれる、ウィツィロポチトリに従う神々の像を彫るために、優れた石工が呼び集められた。これらの地域からやって来たインディオたちは、指示された通りのやり方で、きわめて巧みに石を彫り始めた。これら優れた石工と大工たちに向って、モンテスマは言った。「ここに集まった我が兄弟、息子たちよ。このクすなわち四方形の山¹⁵の高さは、いかほどになるであろうか。その上には、一枚岩を床に敷いた家を作るつもりだ。今あるものは南を正面に見渡すことができるが、頂上の家はあれと同じようなものにしたいのだ。」すると職工たちはみな、各区画¹⁶が備えるべき面積を見積り、一様に言った。彼らが言うには、各区画は125ブラサ¹⁷、4区画合わせて500ブラサ、それから頂上の家は〔広さが〕90ブラサ、頂上部分は各区画が20ブラサで、3つの壁が設けられ、今もそうなっているように南側には見晴らし場がつけられることになる。「今あるものは、すべて壊さなければなりません。これが、私たちの見立てです。新たに出来上がるものは、これの上に、望まれるだけのより高いものになることでしょう。」そうして、石工たちは以前にあった階段を使って、大きいクを作り始めた。それは、先述の通り一年の日数である360日分の段数のものであった。それは我々のキリスト教のものより5日少ないものであった。それからモンテスマとトラカエレルツィンは各地を担当している重臣^{メホルドチ}をすべて招集させ、様々な色の石や白い色の石を持ち寄らせて、全ての神々〔の像〕の眼として——まるで何かを見ているかのようにするために——はめ込ませた。また全ての地域の有力者たちに、偉大なるウィツィロポチトリを崇拝するためであるとして、彼らの財産の中から、ウィツィロポチトリ〔の像〕と一緒にクに置かれる神々〔の像〕の顔や目にするための貴石を差し出すように命じた。このことを告げられた各地の有力者たちは、命令を全うするために、先を競って、緑色や青色のチャルチウイトル、白鉄鉱、カーネリアン、小さなダイヤモンド、エメラルドなど、あらゆる種類

¹⁴ 長さの単位。およそ1.6718m。

¹⁵ ピラミッド型基壇のこと

¹⁶ 原注 82 人差し指を伸ばした手〔注目を引くための矢印のような絵〕。大きなククの神殿と塔。

¹⁷ 面積の単位。およそ4.84 m²。

の貴石を差し出した。そして彼ら全員の前で、ウィツィロポチトリの家の土台¹⁸にするために、これらの石を石灰や砂やテソントラリと混ぜるように命じられた。このことは、モンテスマとシワコアトル・トラカエレルの二人によると、他ならぬウィツィロポチトリの神意を受けたものであり、金粉を持っている者たちは、大量に差し出した。

【訳：柳澤佐永子・千葉裕太 2024/04/14】

¹⁸ 原注 83 人差し指を伸ばした手 [注目を引くための矢印のような絵]。大きいクの基壇。